

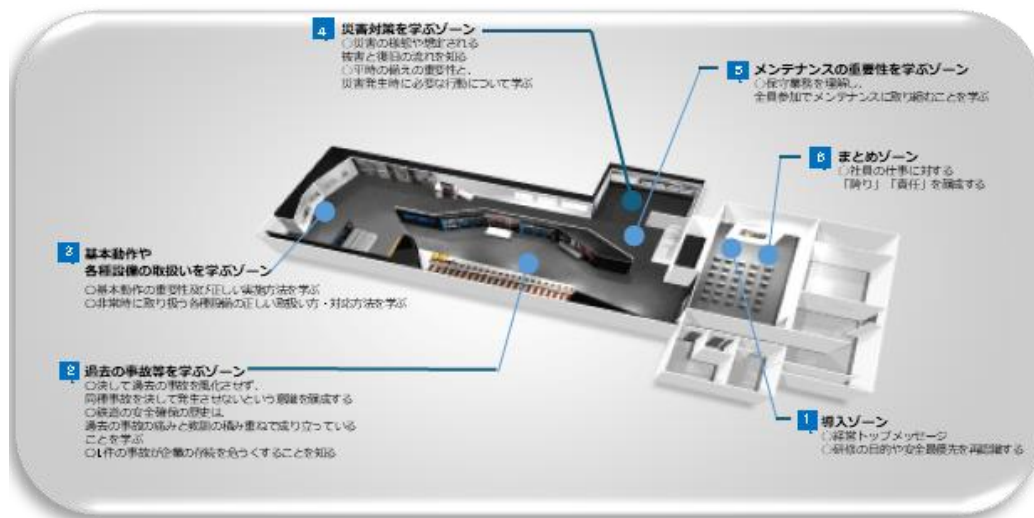
# 安全・安心を担う人材を育てる

地下鉄・ニュートラムの安全・安心は、社員一人ひとりの意識・行動のもとに確保されています。その意識・行動を育むために、Osaka Metro では「人づくり」に力をいれています。

## 全社員への安全研修

すべての社員が、当社の企業理念である「最高の安全・安心を追求」という強い信念を持ち、安全・安心について深く考えることで、安全最優先の企業風土をつくり上げるための研修を輸送の生命館で行っています。

輸送の生命館は「安全はすべてに優先する」という交通事業にとって最も重要な基本原則を、全社員の心に刻むことを目的にした体験型研修施設です。



## 2023 年・2024 年度の安全研修内容

| 主な研修内容                          |                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経営トップメッセージ                      | 社長から全社員に対し、安全研修受講にあたってのメッセージ                                                                                                                                                                                                                                           |
| 研修概要（現状認識）                      | 経営トップコミットメント等を踏まえた研修目的の周知                                                                                                                                                                                                                                              |
| 安全報告書について（講義）                   | 安全報告書から「安全重視の企業風土」を理解し根付かせる                                                                                                                                                                                                                                            |
| 頻発化・激甚化する自然災害への対応力向上（講義・展示物）    | <ul style="list-style-type: none"><li>・過去の自然災害の事例と教訓について、パネル展示や映像教材、対応にあたった社員のインタビュー映像などを用いて知ること、災害の様態や想定される被害、復旧の流れを学ぶ</li><li>・止水パネルの操作体験など、Osaka Metro の災害対策に関する取り組みを知ること、災害は事業存続にかかる重大なリスクであることを学び、社員の当事者意識を高める</li><li>・平時からの準備の重要性をはじめとする BCP の基本方針を学ぶ</li></ul> |
| 梅田駅ホーム端部くし状ゴム接触事故から得た教訓（講義・展示物） | 事故の起こった背景・原因を知り、再発防止策や関係者インタビューから「情報共有と相互確認の重要性」「営業線に携わるプロ意識の確保」という教訓を学ぶ                                                                                                                                                                                               |
| まとめ                             | 研修で学んだことを振り返り、研修効果チェックシートと安全決意カードに記入することで、安全に対する意識を定着させ行動につなげる                                                                                                                                                                                                         |

# 安全・安心を担う人材を育てる

## 危険体感研修

### 労働災害体感研修

労働災害に対する教育は、机上教習では臨場感がなく、災害時の本当の怖さを伝えきれないことから、安全に対する意識を高めるため、危険体感施設（実際に危険を体感できる施設）にて体感研修を実施しています。



## 新しい技術を活用し人材を育てる

### VR を活用した危険感受性向上訓練システム装置

VR（Virtual Reality：仮想現実）を活用した危険感受性向上訓練システム装置は、各作業環境で想定される危険な状況を VR 上で疑似体感し、危険に対するリスクの感度を向上させるものです。

CG（Computer Graphics：コンピュータを使った画像）での VR を活用することで、実映像では再現不可能な触車などの重大事故防止に関する訓練及び急曲線や渡り線部などの危険な場所を凝縮した空間の構築を可能とし、「安全」かつ「リアル」な危険体感が可能となっています。

この装置で訓練することにより、実作業に携わる社員には、鉄道従事者として、過去の教訓をよりリアルに体験し、教訓の継承や、危険感受性のさらなる向上を図り、実作業に携わらない社員には、職場の仲間がこのような危険な箇所で働いていることを強く共感することにより、全社員の「安全最優先」の意識を涵養するものです。

### VR で再現した作業環境 4 箇所（イメージ画像）



急曲線部



直線部



渡り線部



停留場部

それぞれの作業環境の中には色々なイベントがあり、ヘッドマウントシステムを写真のように装着することで仮想空間に入り、各種体験ができるようになっています。



技術部門の訓練シーン

# 安全・安心を担う人材を育てる

## 発表会等を通じた知識・技術の研鑽と展開

研修・訓練で多くの知識や技能をインプットするだけでなく、コンテストや発表会を通じてアウトプットすることで知識や技能の定着化、他者とのコミュニケーション活発化を図り、安全・安心の更なる向上に努めています。また、表彰を行うことで、個々人のモチベーションの向上も目指しています。

### 駅スタッフサービス向上コンテスト

管区駅毎に選抜された駅スタッフが、接客スキル及び知識を競いました。接客力の向上とモチベーションの向上に繋げ、「お客さま満足度」の向上を図っています。



### 運転部コンテスト

各路線から選抜された乗務員が、接客・案内放送・異常時対応のスキルを競うことで、安全意識の高揚はもとより、お客さまサービスの向上と放送技能や知識の研鑽に努め、最高の安全・安心を追求しています。



### 電気技能競技会

電気設備にトラブルが発生したことを想定し、所属毎の各チームが復旧作業を披露し参加者相互で再確認することにより、不測の事態においても速やかに対応が図れることを目指して実施しています。



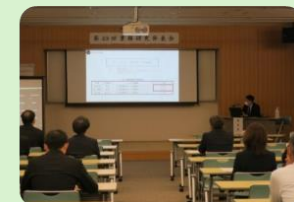
### 車両部コンテスト

車両保守業務の技術継承の一つの手段である「作業動画マニュアル」に関して、その分かり易さや研修用としての効果等を基準に競いました。また、社員の能動的な育成環境を進めています。



### 業務研究発表会（工務部）

業務研究を通じて、技術力、組織力の向上を図っており、将来の Osaka Metro を担う若手社員の育成、技術継承の場として活用しています。



### 建築工事安全大会

受注者及び当社社員の「安全意識向上」を目的として、過去に自らの工事現場で発生した、事故の芽事象とその分析結果を紹介し、ヒューマンエラーに起因する事故防止等をテーマにした講習会を開催しています。



# 安全・安心を担う人材を育てる

## 安全に関する取組み発表会

Osaka Metro Group 全体の安全意識の向上と発表者やその所属の業務に対するモチベーションの向上を図るため、2011 年度より安全に関する取組み発表会を開催しています。

2023 年度は、駅務部難波管区駅（チーム名「シン・難波管区駅 Risk：なくし隊」、発表名「組織能力の強化～個々の能力向上による組織全体のレベルアップ～」）が最優秀賞を受賞しました。



### 安全に関する気づき情報等優秀事例表彰及び本社部門における安全の取組み発表

Osaka Metro 社員の全員参加による安全意識のさらなる向上及び職場環境の改善を図るとともに、安全輸送の更なる向上を目的として、事故の芽情報（ヒヤリハット、社員の気づき）に基づいて防止対策を実施し、安全確保に顕著な貢献があったと認められる社員もしくは事業所に対し表彰を行いました。また、本社部門における安全の取組みで優秀賞に選出された部の表彰を行いました。

#### （安全に関する気づき情報等の受賞した取組み内容）

- ・飲料水自販機の設置場所
- ・出入庫時の照明
- ・西田辺駅での降雨時の床面の滑り対策

#### （本社部門の受賞した取組み内容）

- ・視覚情報を活用したヒューマンエラー再発防止対策



## 安全講演会

安全講演会は、1993 年 10 月 5 日に発生させた「ニュートラム車止め衝突事故」を教訓とし、事故を繰り返さないよう、運輸部門と保守部門が一体となり、安全運行並びに事故防止の強化の取組みの一環として「地下鉄・ニュートラム安全運行強化週間」（毎年 10 月 5 日～11 日）の取組みの一環として毎年開催しています。

2023 年度は、安全文化を組織風土としてしっかりと根付かせることを目的とする講演会を、録画配信にて開催しました。

# 安全・安心を担う人材を育てる

## 専門研修・訓練（運輸系の研修等の一部を紹介）

### 運転士の養成・訓練

身体的・精神的な資質のほかにさまざまな知識・技術の習得が必要です。国土交通省から指定された動力車操縦者養成所において、専属の教師が自身の経験などを含めた幅広い教育を行うとともに、実際の線区における指導操縦者による細やかな電車の操縦訓練により、安全意識の高い運転士の養成に努めています。



### 異常時対応力を高める訓練

故障や災害などの事象への適切な対応力を高めるため、各乗務所に設置している運転シミュレータを使用した異常時対応訓練や、地震及び大津波を想定した避難誘導訓練等を行行的確かつ迅速な対応能力の更なる向上を図っています。



### 駅係員による駅扱い教育訓練や企画立案訓練等

輸送指令所から駅の信号機を遠隔制御できなかった場合に備え、当該駅の信号を操作して電車の安全運行を確保する駅扱い教育訓練や管区駅独自で訓練内容を企画し実施する企画立案訓練等を行っています。



# 安全・安心を担う人材を育てる

## 専門研修・訓練（技術系の研修等の一部を紹介）

### 電気部

「災害を想定した訓練」は毎年テーマを決めて実施しています。昨年度は、作業中に作業責任者が「熱中症」を発症したと想定し、その際に同行していた若手社員と応援に駆け付けた他所属の社員により応急処置から搬送の仕方を実技を交えて訓練を実施しました。



### 車両部

車両が脱線したことを想定した脱線復旧訓練や車輪が固渋して回転しなくなった場合を想定した車軸不回転の訓練、また、洪水の際に地上の検車場から地下にある本線への水の流入を防ぐため、鉄扉の開閉状況確認も含めた取扱い訓練なども実施しています。



### 工務部

知識・技術・技能の向上と組織力の強化を目的とした『保線競技会』を実施しています。営業線内において、レールの損傷を発見した場合を想定し、緊急連絡体制の確認と応急用処置器の設置を行い、鉄道のプロとして緊急時に安全且つ迅速に対応できるよう取組んでいます。



### 建築部

一般地上建築とは異なる条件や環境を有する地下鉄の建築施設の管理において、事故やトラブル、自然災害等に柔軟に対応するため、個人と組織の能力向上を図る訓練や研修を実施しています。特に、若手社員を対象に適切な施設管理に必要な知識等の習得を目的とした、座学や現場管理におけるOJT活動等を通じたサポート研修を実施しています。

